

暦の上では、間もなく『立冬』を迎えます。

今年は秋を感じる時間が少なかったように思いますが、自然界の営みはきっと今も 私達の
気づかないところで 移り行く季節に 忙しく備えていることでしょう。

コロナウィルスの感染状況が 日々の報道を見る限りでは 落ち着き始めている様子です。
ただ、これまでのリバウンドによる感染爆発等の経験も鑑みまして、保育園としましては
もう少し このままの対応を続けて参りたいと考えておりますので 御了解下さいますよう
よろしくお願い申し上げます。

引き続き 健康管理・衛生面についての徹底に尽力致します。

さて、先月後半は プレイデイに代わるプログラムとして、りす組・ねこ組・らっこ組の
保育参加（ミニ・プレイデイ）を行いました。緊急事態措置の対応を 御理解・御協力頂き
小人数&短時間&園庭&雨天中止での内容としましたが、多くの皆様が足を運んで下さり
子ども達とのひと時を 笑顔で過ごして下さいましたこと 本当にありがとうございました。

特に らっこ組の方々には 急な御案内となってしまうまして、心よりお詫び申し上げます。
今回 初めて 3歳児のみ 単独の活動として取り組んでしましたが、当日の子ども達の姿を
目の当たりにし、共に過ごしている4歳・5歳児の頼もしい様子や意識こそが らっこ組の
安心であり刺激であり 憧れのお手本、成長の糧であったのだと思い知らされた気がします。
前日までは「お家の方たちに闘いを挑む！」と 意欲満々の子も達でしたが 残念ながら
本領発揮！とまではいかなかったようです。この経験をクラスで振り返り、想いを新たに
様々な活動を通して それぞれの自信と成長へ繋げていけるよう願っています。いつかまた
より逞しくなった らっこ組からの“挑戦状”を どうか楽しみに お待ち頂ければ幸いです。

また、雨天で参加が出来なかった方々にも、次回は優先的に考慮したいと思っております。
どうぞ御了解の程 よろしくお願い申し上げます。

今月は【感謝祭（Thanks-giving Day）】というキリスト教の記念行事があり、本園では
この日を覚え 神様への礼拝・そして子ども達と楽しく味わうプログラムを予定しています。

『1620年の秋、信仰の自由を求め続けた清教徒（ピューリタン）達は イギリスから “メイフラワー号” という船で航海に出ました。流れ着いた場所は アメリカ大陸でした。見知らぬ土地で何もわからないまま何日も過ごす中、彼らは疲れ果て、心身の衰弱が激しく ついに病気で亡くなる者達が相次ぎました。過酷な状況で、絶望の中に苦しんでいましたが その様子を遠くから ずっと見守っていた先住民（インディアン）達が心配し そばに来て 声を掛けてくれました。先住民の優しさと 神様への純粋な信仰に心を開いた 清教徒達は 温かな交流を通して 先住民達から様々な “人としての生き方” “人として在るべき姿” を 学びました。先住民達は清教徒達が自給自足の生活が出来るよう この土地に適した穀物や 野菜の育て方、収穫の方法や食べ方等の他、人が生き抜くために必要な 自然に対する配慮、責任、大切なルールを丁寧に教え導きました。そのお蔭で、翌年には驚くばかりの実りと 収穫が与えられ、清教徒達は これまでの先住民の温かい心に深く感謝すると共に、何より この あふれる恵みを与えて下さった天の神様へ 一つ心となり感謝の礼拝を献げました。』

この出来事を記念し世界中のキリスト教施設では毎年11月第4木曜日に収穫感謝礼拝が行われています。けれども 感謝祭とは、単に収穫や実りを喜び合う行事ではありません。人間は“神様や 他者から よくしてもらったこと”を すぐに忘れてしまいます。

清教徒達の子孫も同様に、自分達の祖先が受けた遠い昔の 最初の出来事の喜びと感謝を 忘れ、先住民達の命や土地を奪うという 残酷で悲惨な事実を残してしまっています。現在（いま）を生きる者にとって、歴史を正しく知り、当時の人々の想いを繋いでいくということは、後に生きる人々への大切な使命であり 責任であることを痛感します。記念日とは“その時に立ち返る” ためにあると 私は思います。

最初にした心を取り戻すこと、あの時の自分自身を思い出すこと…、そこに立ち返る時、人は 自分中心の心が解き放たれ、優しさや感謝の想いが湧いてくるのだと思わされます。2021年が残り少なくなり、今年の感謝祭を迎える前に 私自身も 自らの心と向き合い 改めて 今日までの歩み、与えられた出会いを振り返り、神様へ想いを馳せたいと思います。そして この感謝する心は 人にのみ在る 神様からの恵みであることを、子ども達へ静かに 伝えたいと思っています。

コロナ禍の中、すべての人の心が神様の平安と愛に満たされ、互いに喜び合い分かち合い 穏やかに生き合うことを 願ひ合う時が訪れますよう 心からお祈りします。（石田 記）
「わがたましいよ、主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。（詩篇 103：2）」